



「教会長から一教師へ」

山田尚子先生は、昭和六年一月三十一日、神奈川教会長・福田源三郎師・みち師の第五子としてお生まれになりました。

学生時代は、勉強以外にバスケットボール(国体出場)や華道にも勤しまれ、大学卒業後、昭和三十五年にご結婚。二人のご子息を授けられました。

様々な神様からのお導きの元、ご主人を始め沢山の方に支えもあって、昭和六十年に「金光横浜西教会」を設立。初代教会長として約十八年御用に当たられました。その後、次男の信二先生に教会長を継承し、約八年前からは一教師として、横浜西教会で日々御用にあたられています。

○教会長を継承をいつ頃から考えておられましたか？

尚子先生(以下:尚)..特にいつ、というわけではありませんでした。ただ以前から「人を生かす」ということを考えていて、早い段階で信二(現教会長)に教会長の座を譲り渡したい、と思っていました。私が教会長のまま

いるよりも、信二が教会長になった方がいい、それが、信二やお嫁さんの浩子さんがさらに信心を深めて、成長させて頂くことになる、と感じていました。

○どのように引継がれましたか。

尚..教会設立当初から、

当時大学生だった信二と一緒に御用してきました。教会の御用や教務関係は、むしろ信二の方がよく分かっ

川でスベって山でコロんで……とってきました

**Interviewee**

第27回 横浜西教会 山田尚子先生



ている位でしたから、特に引継ぎはなかったです。引継ぎ後も、私は教会で御用させていただいて、何かあればその時言えますし。

今振り返ると、教会長を譲り渡した後、二人はすごく成長したと感じますし、うちの場合は大成功だったのかな、と思います。各教会で色々引継がれるタイミングがあると思いますが、うちはあのタイミングでよかったと思います。

○教会長を譲り渡した後は？

尚..教会長を信二に継承し、設立三十年の祭典も終わって一年位後に、私と主人で市営住宅を申し込むことになりました。孫一人が大きくなり、少し手狭になってきたこともあり、教会近くでどこかいい所がないか、と探しました。

○すぐに見つかりましたか。

尚..それが、最初見つけて申し込んだ数件は、明らかに倍率が低そうなので、あまり条件の良くない所も当たらなかったのです。しかし少ししてから、教会の最寄り駅の隣の駅すぐ近くの、バリアフリー完備の市営住宅を見つけ、申し込んでみたら当たったのです。

教会まで通うのにとっても便利で、住み心地もよく、大型ショッピングセンターがすぐ横にあるので、買い物もすぐ行けて助かっています。息子夫婦から「神様からのご褒美じゃない？」なんていわれながら、ありがたく住まわせて頂いています。

○そこから教会に通われているのですか。

尚..はい。他教会の参拝や教内の各会合に行かせてもらう時以外は、教会にお参りしています。今はご祈念や御用の他、お手伝いや留守番をしています。今年八十歳になりましたが、おかげさまで体も元気で、充実した毎日をお過ごし頂いています。

○ありがとうございました。(今村則子)



## ☆連合会に思う

## 「御用」

武蔵小杉教会 須賀院崇徳

『人が助かりさえすればそれでよい』教祖様の有名な御言葉です。私はこのみ教えを、そのまま、言葉通りにいただいています。ですから、御用の仕方は人それぞれでも、最終的には「人が助かる」ことになってゆけばよいと思つています。私は金光様が大切にされている「親様をいただく」あり方を学院生の頃から見習いたいと思うようになりました。金光様に御結界から「親様のされていた通りにさせてください」と御言葉をいただいたことが何度かあります。心中祈念中の祈り方もその一つだそうです（実際何を祈られているのか突っ込んでお伺いしたことはないのですが・・・）。

金光教師としての御用はいろいろとあります。御結界御取次の御用はもちろんのこと、各種活動。私は東京センターにて教務の御用もさせていただいています。それから典衆会にも入らせていただき、そして連合会での御用も少しずつですがさせていただいております。

教師になりたての頃は御用の多さについていけず、何がなんだか分かりませんでした。

当然のように休日はなく、御用の依頼がどんなにあるのです。時には一日に二つ以上重なることもありました。そんな時は正直どちらをさせていただければ良いのかわからず、自分で考えて選んでしまったこともありました。するといつからか「自分でやっている」という気持ちになり、心身ともに疲れてきました。ある時先輩の先生に相談すると「そんな時は御結界でお届けして先生に選んでいただくといいよ」と言っていたとき、「そうか」と思い、それから御用が重なったときや、教師としての御用だけでなく、妻との予定も大事なことでとて教会長先生に御取次願うようになりました。すると不思議とおかけをいただき、心軽く、毎日元気に御用させていただく日々を送らせていただけるようになりました。ありがたいことです。

連合会では、たまにしかお会いできない先生もいらつしやいます。いろんな先生の話を聞かせていただくのは非常に楽しく、いつも楽しみに連合会に出席させていただいています。今年も連合会でもお役をいただきました。今後も御用が重なることが増えるのでしょうか。

「御用をさせていただく」何事も教会長先生の御取次をいただきながら、自分で決めずに教会長を通して神様にすがりながら「人が助かりさえすればそれでよい」とのみ教えを大切に、御用させていただきたく思っております。よろしく願いいたします。

## かりんの輪



## 「修徳殿に入殿するまで」

甲府教会 岡本和子

私が初めて教会に行った（お参りではなく）のは、10年前になります。

その年、80歳まで現役で看護師をしていた母が退職をし、長い間無事勤めさせて頂いたお礼に、ご本部に参拝したいと言うので、金光教のことはあまりよく知らなかったのですが、いつも曾孫の子守など何かにつけて頼りにし、世話になっていたので、親孝行のつもりで母のお伴をすることにしました。

母は子どもの頃、親に連れられよくお参りしていたようですが、結婚をし子育てや仕事で忙しく教会から暫く遠のいていました。けれども、信心は心に染み込んでいて、金光様のことをご丁寧にも「お金光様」と言い、家の地鎮祭や何かの時には親先生に来て頂いてお祭りをして頂いていました。

甲府教会からの貸し切りバスの中はとても和気あいあいとし、お話をしたり楽しく歌ったりしながらご本部に到着しました。

私にはすべてが初めてで、宗教とか信仰というものに堅苦しいものと思つていたのに、金光教もご信者さんたちも自由に伸び伸びし、押しつけがましいところは全くありませんでした。朝三時頃起床し、金光様のお出ましをお迎えし、御祈念を一緒にさせて頂きました。母は本当に嬉しそうで、

## ☆「女性のつどい」 が開催されました

七月三日(日)、丸子教会にて「女性のつどい」が開かれました。丸子教会では、横山先生を中心に、信徒の方たちと早々にご準備をいただき、おかげさまで内容の濃い「つどい」をさせていたただくことができました。また震災直後に案内状を作成したのですが、果たして予定通り実施できるかどうか不安がつきまといっていました。まずは開催できたことありがとうございました。まずは開催できたこと、ありがとうございますとお礼申しているところです。当日は暑い中、12教会、総勢53名(うち男性9名)の方々が馳せ参じ、和やかなうちに3時間ほどたつぷりと交流することができました。

まず井上弥生さんの「おかげの筒の中で生かされて」と題してのお話を伺いました。昨年のお話もそうでしたが、ご主人を亡くされただけでも大変なことなのに、その外に次々と



起こってくる苦難に、何事もないかのように向き合っている姿に、ただ感心するばかりでした。

井上さんは、音楽大学卒業後、ピアノを教えながらスーパールのアルバイトをしている時にご主人と出会い結婚され、ご主人は井上家に婿養子として入られました。そのご主人が勤めていた料理店の閉店を機に弁当屋を開業し、地域の人たちにも大変喜ばれ繁盛していたのですが、9年ほど経った頃に、ご主人が脳梗塞で倒れ閉店。井上さんは中3の息子さんが卒業するまではと、お誘いを受けていた保険の仕事をされます。その間、次女の方が不登校になり、娘さんの強い意志により、親元で過ごすことを条件に退学。その娘さんは、ご本部に参拝しているうちに、お琴に興味を持つようになり、お琴を始める。それをきっかけに、息子さんと井上さんも加わるようになり、ご主人の三年祭の時には、家族で典楽をされたということ。その娘さんも、その後定時制を卒業し、息子さんもこの春社会人になられたとのこと。そして井上さんは現在、早朝から夜中まで宅配のお仕事に励んでおられます。

ご主人とは一度もけんかをしたことがないと言われ、いつもご主人の写真を身に付けて日々明るく元気に過ごされています。井上(4頁上段へ)

こんなに喜んでくれるなら毎年でも母のお伴で参りしようかなと思いました。まだその時は信心というより親孝行のつもりだったので。

ところが翌年、私は大腸癌になり手術を受けることになりました。大変ショックで心は真つ暗になりました。しかし母も教会の先生も一所懸命祈って下さり、私も「金光様、金光様」と念じ続けました。お陰様でかなり進行していた癌でしたが全快し、今では病気の前より元気で看護師の仕事が続いています。

それからは自ら進んで教会へ参拝し、教えやお話を頂くようになりました。そうして思ったことは、教えが無理のない道理になったものだという事でした。振り返ってみると、私が信心を始める前から、ずっと神様に守られ助けられてきたのだということが分かりました。「後になってあれもお蔭だった、これもお蔭だった」ということばかりです。

信心する前は、仕事や人間関係のことで、嫌なことや心配すること、腹の立つことが一杯あったのですが、この頃ではそういう思いに囚われることがなくなってきました。例えば、夜勤の時など、以前は厄介なことが起きないように願っていましたが、今では、どういことが起こっても神様がついて下さるから大丈夫と思いい、その事に間違いなく対処できますようにと願えるようになりました。

夏冬の信行期間には朝参りをさせて頂いたり、月例祭にはご信者さんがお参りできるように車で送迎の御用をさせて頂いています。(4頁中段へ)★

さんにとって教会とは、ご主人と父親に会える場所とキツパリとおっしゃって、ご主人が亡くなってから神様がいつも側にいてくださると感じられるようになったということです。その後の懇談でも、皆さんが教会を心のよりどころとしていたことを感じさせてもらいました。そして午後4時に予定通り終わることができ、明るく爽やかな気持ちで教会を後にしました。

(報告 吉岡裕子)

### 「ひいらぎの会」を開催

六月三日(金)、かながわ県民センターに於いて「ひいらぎの会」(教会連合会・教会家庭婦人交流の場)が開催されました。講師に河井真弓先生(中野教会在籍教師)をお招きし、「現代に教祖様を蘇(よみがえ)らせるために」と題してお話を伺いました。先生は、ご自身の体験等を通して「常に教祖様の信心を自分に問いかけています。」とお話くださいました。

引き続き、お話を受けて懇談をさせていただきました。参加者は9名でした。

横山明子

★仕事や旅行でいろいろな土地に行った時は、その教会へお参りするのにも楽しみです。

今年の5月28・29日には、御本部の修徳殿に入殿にさせて頂き、輔導の先生のご指導を仰ぎ、またお道の大先輩の素晴らしいご信者さんたちと交わっているいろいろな信心のお話を聞き感動しました。まだまだ足元にも及びませんが、日々、信心によって成長させて頂いていることを有難いと思えます。

今年も母(90歳)と一緒に元気にご本部にお参りさせて頂けるようお願いしています。



### ☆連合会からのお知らせ

#### ☆教師信徒研修会

日時：九月三日(土)

十三時三十分～十六時

会場：鶴見教会

神奈川県布教当初の状況や先師の話など、関東布教史編纂委員会の委員を講師に迎えて、研修してまいります。

※詳しくは、ポスター・チラシをご覧ください。

### 〈な・が・れ〉 「神様のおかげ」

大磯教会 山口雄治

古き良き時代、母が大磯教会の信者で、母と一緒に、何かと教会の手伝いなどをしていううちに、私の心が神に向かうようになったようです。

何十年か前の話なのですが、母が私の進路について教会の先生に伺ったところ、「息子さんの良いと思う方にしなさい」と言われたそうです。私は父の後を継いで左官業をすることになり、神様のおかげで、全国技能グランプリ大会で三位に入賞することができました。左官業のような仕事は、ちよつとした不注意が危険を伴います。それを今日まで、私を生かしていただき、支えてくださったのは神様のおかげです。

自分の心を神に向ける時、事々物々すべてに、神の働きと恵みが確かに見えるような気がいたします。そのような眼が開かれてくれるよう、いつも思っています。

金光教神奈川山梨教会連合会

発行者 福田光一

〒221-0057 横浜市神奈川区青木町六一二十五  
金光教神奈川教会内